

# 木

KINO PRESS  
NO.36

# 野

京都精華大学  
KYOTO  
SEIKA  
UNIVERSITY

# 通

木野通信 第36号 2002年12月10日発行  
京都精華大学 企画室  
〒606-8588  
京都市左京区岩倉木野町137  
TEL. 075-702-5261

# 信

## リベラル・アーツとしての新しい人文学部

学長◎中尾ハジメ NAKAO Hajime

豊かな社会。環境の世紀。メディアの時代。二十世紀の末ごろから、私たちの生きる日本の社会の特徴、あるいはその課題を表現した言葉だ。よりの正確には日本社会にも当てはまる近代の帰結を語っていて、私たちが乗りこえなければならぬ主要問題である。しかし、いずれも極めて両義的な響きをもっている言葉である。「豊かな社会」には、人間がハンクラーナな自発性を失いたた消費者として浮遊するという、恐ろしくやっかいな特徴が貼りついている。「環境の世紀」が意味するのはなによりも文明社会にさしこまれる存続の危機だが、新たなビジネス・チャンスという実利主義のみならず、人間の知力を傾けての挑戦という響きがある。その挫折は途方もない荒廃や戦争を意味することは言うまでもない。「メディアの時代」という言葉にも、これからさらに実現していくであろう可能性への期待と、人間の際限のない自己拡張への不安とが、鋭く交差する。

しかし私たちは、これらのことを明確に主題として、これからの社会

をいかに形づくるべきか議論するための知識を、十分に蓄積してきたとは必ずしも言えない。残念ながら日本の多くの大学は、これまでは、そのような批判的な知が形成される場であるよりは、むしろ社会の趨勢にほとんど無批判的に追隨してきたと言わなければならないからだ。豊かさについても、環境危機についても、メディアによる社会変容についても、広く流通している意識は、商品広告のコピーのように口あたりはいが曖昧なものばかりであるように思える。

大学が、多くの若者の人間形成の場であり、社会と自己とを対象化する知性の場であるならば、これらの主題をめぐって広範な学問・芸術の成果をあつめる必要があるにちがいない。リベラル・アーツと呼ばれる大学教育の目指すものが、社会の形成に責任を持つとする人間であるならば、今日では、「環境」はその教育の一つの大きな主題であるべきだろう。もちろんこれは、狭い意味での環境のことしか語れない専門技術者の養成を意味するものではない。また、われわれをまるで取り囲むか



のように構築されつつあり、擬似的な世界と評ふこともできる「メディア」も、大学教育のもう一つの大きな主題としなければならぬだろう。

人文学部の環境社会学科はこのような大学教育の先駆けとしてつくられたが、卒業生が次々を迎え、いよいよその成果が問われる。また卒業からは、もう一つの今日的な主題「メディア」を軸とする社会メディア学科と、伝統的な芸術・芸能の探究を基軸とする文化表現学科とがスタートする。芸術文化こそ、経済中心の趨勢に批判的な視座を培う人文学のなめだからだ。

人文学部では、このような今日的な再編成に加え、入学生の受け入れについても、顔の見えない入学試験から徹底した対話へと大きな転換をはかりつつある。もとよりリベラル・アーツの大学とは、学生のただ通過する場ではなく、社会を捉えなおし自分自身を評価するという作業を、共同で行う場だからである。



すでに卒業生へのメールアドレス提供を開始している本学では、このほど、法人本部企画室が中心となって、本学発の才能のネットワーク化をめざす「京都精華大学同窓会WEB」のブラッシュアップを検討している。創立以来独自の校風と伝統を誇ってきた京都精華

大学を支えてゆくのはおよそ18,000人の卒業生諸氏であるという認識のもと、一括した相互連絡を迅速に行える専用サーバーを持つなど、同窓会の力をより高めて相互に助け合ったための抜本的なIT化が、現在計画されている。新しい「京都精華大学同窓会WEB」は、卒業生同士の相互交流を円滑にし、お互いの活躍をアピールし合っ情報共有すると共に、卒業生と在学生とのコミュニケーションをはかる事を主眼に置いている。デザイン・美術や企業など各分野で活躍する卒業生がWEBを通じて、そうした業種を希望する本学在学生会などのチャンスや、その他、学校事務局を通さず卒業生が教員とダイレクトに連絡を取ること様々なメリットが期待できる。



本学から100メートルほど西へ、叡山電鉄踏み切りから3軒数えた辺りに、モダンな木造のレストランがある。これは、現在の悠々館学生食堂に加えて、学生の健康と食生活を支援するため、10月1日より新装オープンした学生食堂「れあた」(座席数70)。店の屋号は、1974年の開店以来、中華メニューを中心に学生たちに親しまれてきた本学近隣のレスト

ラン「り」とる・れあた」(現在は閉店)にちなんでいる。うどんや丼物を中心にした軽食メニューが堪能できる昼の営業時(11:00~14:00)は、学生のみならず学外からも食事に訪れる客で繁盛している。喫茶営業時間帯(14:00~16:30)にはコーヒーや紅茶などを250円で。また、夜の営業時(16:30~21:00)ラストオーダー20:30はビール・日本酒なども提供され、宴会用サイドメニューも充実しており、京都の中心部から少々離れた洛北で学本本学学生にとって、食生活や学園生活の力強い味方となる。この「れあた」、京都精華大学関係者向けに、10%の割引を実施している。特別価格(丼が370円)を設定している。電話予約でパーティーなどの貸し切りも可能。お問い合わせは、「れあた」(075・723・1141)まで。

## 同窓会WEBが人材情報共有の場へ

在学生と卒業生との相互交流を活性化させる仕組み作りが進む



シブ(企業や自治体での短期就業が単位となる)を利用して同市の市民環境部で経験を積んだり、環境社会学科や建築分野の学生らが「自然文化園」をランドスケープと環境の側面から調査するなどした。

## 地方自治体との連携交流事業が始動

本学と舞鶴市との間で、新しい形の協同事業構想が進行中



2003年度より、本学人文学部に「社会学・ディア学」が新設される事を記念して、本学では、この9月より計4回、連続講演会が開かれた。新学科でこれからの若者達が、何を学ぶべきか、何をなすべきか、各界の優れた知識人のまなざしから洗い直すべく企画されたもの。

## キャリア支援スペース「e-box」がオープン

進路指導や就職資格講座、本学学生NPOなどの活動拠点



この7月、在学生と卒業生の就職と起業を支援する「e-box」がオープンした。ネーミングの由来は、英語のエクステンション(拡張)やe-ラーニング、エコロジーなどの頭文字を取ったもの。一貫した進路指導と就職資格講座を通して、学生のキャリア支援を具体的に行う拠点として、大きな期待が集まっている。この「e-box」、1階に置かれた2つの教室(それぞれ32席と20席)では、就職課主催のコンピュータや色彩の検定など、ダイレクトに就職に役立つ資格講座を開講している。また、2階のスペースでは、卒業生が立ち上げた環境マネジメントのNPO団体「木野環

## 学生食堂「れあた」がオープン

長く学生に親しまれた近隣食堂「り」とる・れあた」にちなんだ和風料理店

# 大学院芸術研究科に博士(後期)課程を開設予定

来年度からのスタートに向けて協議申請中

2003年度から大学院芸術研究科に博士(後期)課程が開設される。

この「大学院芸術研究科博士(後期)課程」は、芸術の領域が従来の古典的な枠組みから脱却し、新しい表現の創造に向けての胎動が生まれてきたことを背景に、京都精華大学が2002年6月28日、文部科学省に設置協議書を申請したもので、現在協議申請中。

これにともない、「大学院芸術研究科修士課程」は来年度から「大学院芸術研究科博士(前期)課程」となる。修業年限は前期が2年、後期が3年となっている。「大学院芸術研究科博士(後期)課程」修了者には博士(芸術)の学位が授与される。

「大学院芸術研究科博士(後期)課程」では、表現ジャンルを越え、また「制作」と「理論」とを結合した、新しい芸術を実践的に構築し、研究する。次世代の中核を担う表現者、研究者を輩出することが期待される。

## 京都精華大学、新しい大学院の特徴

「大学院博士(後期)課程」は、「芸術専攻」の1専攻となり、「デザインアート」「メディア」「メディア」の3つの領域で構成される。「デザインアート」領域では古典的・近代的な手法を活かした現代の作品作りが志向され、「デザイン領域」では社会との関係の中でモノの美的・機能的合理性を追究し、「メディア領域」では意識の拡張を呼ぶインタラクティブな作品の研究が可能になる。学生は個々のテーマを持ちながらも、必要に応じてこの3領域を自由に横断することができる。また、「制作」と「理論」が調和し、専門を深

めながらも新しい視点を獲得することを助けるために、制作・理論を問わず領域の異なった複数の教員による合同指導体制とする。

入試の詳細は未定。募集要項をご希望の方は左記までお問い合わせ下さい。

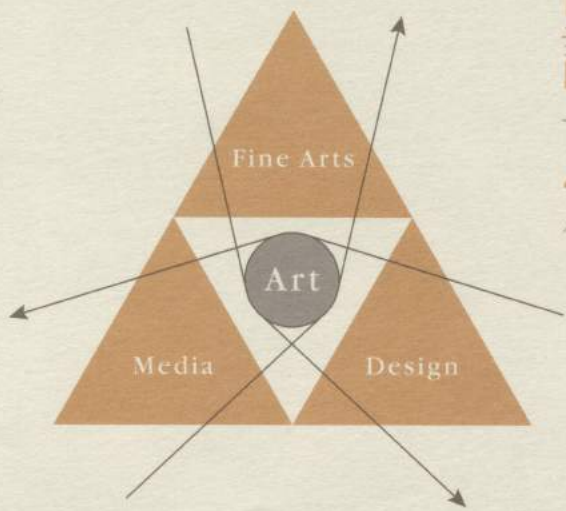
教務課  
住所 〒606-8588  
京都市左京区岩倉木野町137番地  
TEL 075-702-5119  
FAX 075-722-0838

## 人文学部の新学科開設記念講演会(全4回)が開催

大学と知の枠組をとらえ直す講演会「世界」の現在と「知」の未来

「大学院芸術研究科博士(後期)課程」が求める、新しい研究者像

- ①表現の新たな可能性をつむぎ出すために、作り手と受け手の関係性に着目する
- ②個々のアート作品の持つ重層的な意味を、様々なアプローチで掘り起こす
- ③京都の文化的伝統を通じ、斬新かつ普遍的な表現のあり方を模索する



第1回(9月27日・金)には、フリージャーナリストで中国の日本大使館への北朝鮮脱出者駆け込み事件を鋭く取材した石丸次郎氏(アジアプレス・インタナショナル)が、「ジャーナリズムの可能性」と題して講演を行った。会場では、既成の大手ジャーナリズムとは違ったフリーの立場から見えて来る現場の話に、多くの学生や学外の社会人らが真剣に耳を傾けていた。

第2回(10月11日・金)は、都市を放浪する人間像をとらえてきた写真家の橋口謙二氏と、来年度より社会学部メディア学専攻の専任教員となる哲学者の西研氏が、インドと東京で若者たちを対象に行われた写真ワークショップをもとに、現在の日本文化のありさまとその未来について、聴衆に向けて真摯に語り合った。

第3回(10月29日・火)では、マクドナルド店舗の建設を阻止してグローバル化の破壊的な進行に警鐘を鳴らしたフランスの農民運動家、ジョセ・ホバ氏が来日。「もうひとつの世界は可能だ」と題して、多国籍企業にコントロールされない食と農の未来像を力強く提起した。

最終回の第4回(11月29日・金)には、上野千鶴子氏、橋爪大三郎氏(共に社会学部)、刈谷剛彦氏(教育社会学部)に、西研氏と中尾ハジメ本学学長が加わり、「新しい大学の使命」と題して、21世紀に生きる若者を育ていくために大学は今、いかに変わるべきか、その未来像について議論を交わした。いずれの回も学内外から多くの参加者があり、新学科への期待の高さがうかがわれた。

# 「社会メディア学科」と「文化表現学科」 2003年4月いよいよスタート。

人文学部に設置認可を申請していた「社会メディア学科」と「文化表現学科」の2学科が、この春正式に認可された。新しいふたつの学科の開設によって、2003年度から人文学部は既設の環境社会学科を加えて、社会、文化、環境の3つの軸から人間の総体に迫る3学科体制となる。今回は、新学科の具体的な学び方をお知らせする。

## 社会メディア学科

現代社会が抱える問題群に、政治・経済・社会・文化といった多様な視点から迫るのが「社会メディア学科」。現代社会やメディアにかかわるすべてを研究対象とし、問題の背景にある歴史や思想、構造を体系的にとらえることで、問題解決の糸口を探っていく。マスメディアからの情報を的確に取捨選択する知性と能力を高めながら、インターネットなどのパーソナルメディアを活用して情報を編集・加工し、自ら発信するノウハウを、4年間で身につける。

### 「社会メディア学科」のカリキュラム

本科は、「現代社会の思想群・構造群・現場群」の3つを相互関連的に選択して、現代社会が直面する問題を具体的にかつダイカルに説明するようデザインされている。「今・ここ」を生きるパーソナルで閉ざされた側をさえ、世界との関わりなしには存在しない、これはデジタルな事実もない。大きな対象と、翻ってらっけにすら見える自分自身とが、本当はいったいどのように関わり合っているのかを、「社会メディア学科」は追究する。

現代社会の具体的な諸問題を、思想的な背景や社会の全体像の中で総合的・体系的に理解するため、以下の「専門教育科目」を学ぶ。

#### 現代社会の思想群

現代社会を成立させている思想、価値意識について学ぶ。「現代の思想」「現代の宗教」「生命科学と倫理」「現代社会と歴史認識」などの科目がある。

#### 現代社会の構造群

現代社会の構造を理解するための科目群。「国際社会の構造」「日本社会の構造」「グローバリズムとメディア」「現代政治と市民社会」「消費と社会」など。

#### 現代社会の現場群

現代的な諸問題をその発生の現場から掘り下げる。「現代社会の病理」「青少年と社会」「グローバル社会と紛争」「市民運動」「国際社会とNGO」など。

#### 学部共通専門教育科目

学部共通科目として、メディア表現の技術と知識を理解する「メディア・表現科目群」と、フィールドから学ぶ「地域研究科目群」がある。

## 文化表現学科

研究対象となるテーマは、古今東西の文化・芸術表現・芸能・民俗文化にかかわるすべて。多様化する文化及び文化表現を見つめて、芸術・芸能の諸ジャンルに対して、伝統と現代の両面（時間軸）、さらに国と地域（空間軸）からアプローチするのが「文化表現学科」の大きな特徴だ。表現を鑑賞・批評するだけではなく、フィールドワークやインターンシップによる芸術・芸能の制作現場や実践現場、舞台裏の体験を通じて、芸術・芸能の発展に実践的に貢献できる人材を育成する。

### 「文化表現学科」のカリキュラム

本科は、「文化表現の理論群・歴史群・諸領域群」の3つを相互関連的に学ぶよう構成されている。過去の作品との共通項を全く持たない表現など存在しない。「文化表現学科」ではこの事実を手がかりに、時代を縦横無尽にさかのぼり、作品の深層に堆積した数百年分の時間を何度もたどり直す。そうして見出された表現の普遍性こそが、現代的な表現のオリジナリティを浮き彫りにし、新しい表現への確かな手がかりとなるはずだ。

芸術・芸能の諸ジャンルを歴史的・理論的に理解し、総合的にとらえるまなざしを得るために、以下の「専門教育科目」を学ぶ。

#### 文化表現の理論群

さまざまな文化表現の根拠を流れる思想・理念を理解するため、「芸術文化論」「美学概論」「宗教民俗学概論」「比較文学概論」などを履修する。

#### 文化表現の歴史群

文化表現の歴史的な変遷・展開をとらえる視点を養う。「日本芸能史」「文芸表現史」「日本美術史」「西洋美術史」「口承文化の歴史」「音楽文化史」など。

#### 文化表現の諸領域群

個別の文化表現の具体的な領域を扱う。「児童文学論」「映画芸術論」「マンガ文化論」「話芸史」「舞踏・舞踊論」など。

#### 学部共通専門教育科目

学部共通科目として、メディア表現の技術と知識を理解する「メディア・表現科目群」と、フィールドから学ぶ「地域研究科目群」がある。

# 大きく変わる入試制度

受験生の要望に応える柔軟な入試制度が整う

本年度に実施される入試から、受験生にとっての利便性を高めるため、より柔軟な入試の仕組みを整えた。今回、これまでに増して受験しやすくなった入試制度のおもだった特徴は、以下の通りとなっている。いずれも、受験生の視点から入試制度を多角的に再検討した結果生まれた新システムだ。

## 人文学部のみ

### 受験日の自由選択制の導入

受験生は複数の日程から自分の都合の良い受験日を選んで受験することが出来る（\*一部入試種別では単一の日程）。たとえば自由に選べる日程が3日間ある場合、同じ学科を、異なる受験科目でも同一の受験科目でも自由に受験日を選ぶことが可能。

また、ある学科の複数の入試日程を受験し、そのうちの一番高い得点で入学するといったことも可能になる。

### 受験方式の選択の多様化

一般1期A日程では、2科目方式（英語・国語・選択科目より2科目選択）と3科目方式（英語・国語・選択科目）、また併用方式（3科目方式と同じ試験科目で受験し、2科目方式と3科目方式の両方で判定）の3種から、自分に合ったタイプの方式を選択出来る。方式の多様化によって、受験生が最大限に力を発揮できるようなった。

一般1期入試B日程では、論文方式と総合力方式の2つの受験方式から得意な方を選んで受験出来る。

また、一般2期入試日程では、英語方式（英語のみで受験）、英・国方式（英語と国語の2科目で受験）、併用方式（英語方式、英・国方式の両方で判定）の3つの受験方式から選択が可能だ。

### 環境マネジメントコースに特別入試枠を設置

人文学部環境社会学科環境マネジメントコースに特化した新しい入試制度が設けられた。環境社会学科では通常2年次よりコースを選択するが、この入試での入学者に限って、1年次より環境マネジメントについて専門的に履修することができる。

## 人文学部・芸術学部共通

### 入学検定料のコンビニ納入システムを導入

入学検定料の払い込みをローン、ファミリーマートおよびスリーエフの情報端末で受けつけるシステムが整えられた。平日の昼間に金融機関に行けない受験者などに配慮したもので、休日を含め24時間、払い込むことができる。

### 入学検定料が受験回数に比例して割安に

複数回受験ができる受験日程の場合は、1回目の入学検定料が35000円。2回目以降は25000円となる。また、同じ試験種別で他学科他専攻を併願する場合も第2志望分の入学検定料は25000円。

### 入学手続納入金の分納制

今年度からの受験生は、入試を経て合格が決まった後、入学手続納入金の納入方法を、「1段階納入方式」「2段階納入方式」の2種類から選ぶことが出来る。

2段階納入方式を選択した場合、まず入学申込金を納入し、後日、残りを納入することができる。経済的な負担を分散することが可能になる。また、いったん合格が決まった後に入学を辞退する場合、期限までに申し出れば、すでに払い込んだ入学金以外の納入金が返還される。

## 入試日程一覧(12月～)

### 【人文学部】

試験種別	出願期間(当日消印有効)	試験日程(自由選択)	合格発表	第一次手続き締切	第二次手続き締切	試験会場	試験方式
一般1期A日程	1/6～1/21	1/26・1/27・1/28	2/4	2/14	3/3	京都・東京・名古屋・大阪・広島	2科目・3科目・併用
一般1期B日程	1/27～2/12	2/16	2/21	3/3	3/24	京都	論文・総合力
一般2期	2/12～2/26	3/2・3/3	3/10		3/24	京都	英語・英国・併用
環境マネジメントコース特別	1/6～1/21	1/30	2/4	2/14	3/3	京都	英国

### 【芸術学部】

試験種別	出願期間(当日消印有効)	試験日程(自由選択)	合格発表	第一次手続き締切	第二次手続き締切	試験会場	分野・コース
							版画・PCD・ストーリーマンガ
一般1期	1/10～1/27	2/2	2/10	2/24	3/24	京都精華大学	版画・PCD・ストーリーマンガ
		2/3	2/10	2/24	3/24	京都精華大学	日本画・立体造形・VCD・建築・カートゥーンマンガ
		2/4	2/10	2/24	3/24	京都精華大学	洋画・陶芸・映像・テキスタイルデザイン
一般2期	2/17～3/3	3/8	3/16		3/24	京都精華大学	洋画・陶芸・VCD・テキスタイルデザイン・カートゥーンマンガ
		3/9	3/16		3/24	京都精華大学	日本画・立体造形・版画・PCD・映像・建築・ストーリーマンガ
		3/11	3/16		3/24	東京	全分野・コース



### 竹下美紀さん

1999年度 人文学部人文学科卒業 テレコムスタッフ(株) 勤務

緊張感が張りつめる収録直前のTVスタジオ。インカム(副音声と連絡を取るイヤホン)を耳に、カムテープやマシンの音を肌身離さずききまききと立ち回る竹下さんには、息をつく場所も時間も無い。彼女が所属する「テレコムスタッフ」は、テレビ朝日の「世界の車窓から」やNHKの「スタジオパークからこんにちは」などの他数々のテレビ番組を手がける有力プロダクションだ。竹下さんはこれまでに、タイプの異なる収録現場を次々とこなして来た。「私はスタジオよりもロケのほうが向いてるかも」と笑顔を見せる。アウトドア番組のロケ先が溪流と決まれば、カヌーにしようか、釣りにしようかなどと迷うのもまた楽しいと言う。

竹下さんがテレビの世界へ入ったのは、京都の美術系短大から精華へ編入した3回目の頃だった。リポーターが面白そうだったという漠然とした思いは、地元局の制作現場経験によって、「制作する側に行きたい」という具体的な強い気持ちに変わった。

卒業・上京して入社した最初の制作会社では、日本テレビの「スーパーテレビ情報最前線」に配属された。取材と編集で平均睡眠時間が1時間を切っていたが、番組作りの様々な技術を吸収するのにも夢中で、苦にはならなかったという。1年ほど経験を積んでフリーになった後、竹下さんは現在の「テレコムスタッフ」に入社する。「テレビの世界は意気と狭い」と竹下さんは話す。「だから、いろんな人脈が生まれるし、あっちこっちの現場で様々な番組を制作するチャンスがたくさんあるんです」。近い将来、かつて精華時代に感銘を受けたドキュメンタリーというジャンルに挑戦したい。竹下さんの夢はもうすぐ現実のものとなるに違いない。

### 本学の石川九楊先生が 日本文化デザイン賞・ 毎日出版文化賞を受賞



本学の表現研究機構教授で、文字文明研究所所長を務める書家の石川九楊先生が、狭義のデザインの枠を越えて社会や文化に新しい角度から働きかけ、第一線で活躍する文化人やアーティストなどに対して贈られる2002年度「日本文化デザイン賞」(日本文化デザインフォーラム主催)を受賞した。

石川先生はまた、『日本書史』(名古屋大学出版会)で、過去1年間で日本の文化向上に最も貢献した出版物を顕彰する、今年度の「毎日出版文化賞」第1部門(文学・芸術)も受賞している。

### 「第5回国際マンガ展」を 7000人の観客が鑑賞

9月10日(火)～9月22日(日)、京都市美術館別館で、本学と京都国際マンガ家協会が主催する「第5回京都国際マンガ展2002」が開催された。これまで自然環境を大きなモチーフとしてきたこの国際展覧会、今回のテーマは「動物との共存」美しい地球に生きる。世界数十カ国から集まった約450点の作品を、つめかけた京都市民や京都精華大学の学生ら、延べ7000人以上の観客が鑑賞した。

マンガと環境に対する京都市民の関心の高まりがうかがえた。今回のコンペ「動物との共存」部門で銅賞を獲得したのは、じっくりと描きこまれた温かい筆致が作風の本学マンガ学科・玉田京子先生、他。

### OB紹介 卒業生は今



大阪の繁華街にオープンするイタリアンレストランが、雑誌編集者・澤藤さんのその日の現場だった。担当する雑誌は、クルメ情報から注目ニュース、チケッ情報まで、関西の街の流行を先取りするタウン情報誌「KANSAI 1 週間」。店のフロアから外に出ると、澤藤さんは往來の人の流れに立つ。紙面の出来あがりを見直ししながら、カメラマンにアングルの指示を細かく出した。

新しさを追うだけでは作れないのが雑誌の難しさだ。多数の取材と膨大な資料から得たデータを駆使して流行を分析し、タイムリーな企画を次々と提案する、それがプロの編集者という自覚と自負が、澤藤さんにはある。激務をこなすスタミナは、バトン部だった高校時代に培われていた。当時、大会に向けた練習が夜遅くなることも、いつも寮のテレビは見られなかった。雑誌だけが情報源だったという。

論文入試で精華に入學した澤藤さんは、今、新たな段階に立っている。「情報誌は流行を追う仕事で、すぐ、流されたくないというのが私の本音。どうせやるならチームの仕掛け人くらいにならないと(笑)」

### 澤藤さやかさん

2000年度 人文学部人文学科卒業 (株)講談社「KANSAI 1 週間」編集部勤務

### 木野評論 新刊発売中

木野評論33号は現代の韓国を大きく特集



京都精華大学が編集発行する評論誌『木野評論』、この春発行された第33号は「あなたの知りたい韓国のすべて」と題して、現代韓国の深層に焦点を当てている。巻頭座談会『韓国と日本の「ウソ」と「真実」』では、驚沢明氏(作家)ほか現代韓国と日本との文化をつなぐ若手知識人らの輪に、『木野評論』編集長、鈴木隆之先生(建築)が参加。昔の韓国チームの是非から国家のあり方まで、韓国の虚像と実像に迫っている。その他、連載「戦後という時間とアイデンティティ」では、梁石日氏(作家)と鈴木隆之先生が、米同時多発テロから戦後をひもとく、戦争や平和の概念の虚構性について鋭い問いを重ねている。全国有名書店にて発売中。(青幻社)

### 2002年度大学人事体制

- 2002年度役職者は以下の通りです。
- 学長 中尾ハジメ
  - 学長担当学長補佐 高島寛
  - 学生担当学長補佐 斎藤光
  - 芸術研究科長 麻田脩二
  - 人文学研究科長 堤邦彦
  - 芸術学部長 黒崎彰
  - 人文学部長 梶川よ志子
  - 教務学部長 葉山勉
  - 学生部長 坪内成晃
  - 入学部長 松尾眞
  - 国際交流室長 澤田昌人
  - 就職部長 井上弘次
  - 情報館長 松谷昌順
  - 事務局長 福岡正蔵

### 新入生からの一言

New Commer's Voice

### 春山文枝

人文学部環境社会学科教員



日本の市民活動について研究し、環境NGOでも数年働いた。「南北問題」「環境NGO論」などの科目を担当する。

2002年度から環境社会学科の専任講師として、「環境NGO論」や「南北問題」などの授業を担当しています。自由で活気のあるこの大学の雰囲気は、NGOで働いていた時ととても似ていると感じています。ユニークな教員や職員陣と活発な学生たちとともに、このキャンパスから新しいライフスタイルや考え方を発信して、京都精華大学をNGO化させることが、私の密かな野望です。

### 小川聡

芸術学部ストーリーマンガコース教員



マンガ家として「ビッグコミック スピリッツ」「SFマガジン」などで活躍。昨年度は非常勤講師をつとめていた。

自宅が近所だったため、教鞭を執る以前から精華大学にはときどき来ていて、非常にオープンな大学だという印象がありました。マンガ学科そのものが出来てまだ3年ですし、日本でここしかない学科なので、教育方法が確立していません。その意味で毎日が試行錯誤だし、いろいろ失敗も多いのですが、その分析しいものを作っている、という実感があります。活気のある場で作り手としても刺激になっています。

### 辻井直樹

教務課職員



神戸生まれ。西宮や広島、千葉を経てこの10月より、憧れの京都へ。これまでは中学受験塾で小学校低学年教育を担当。

職員として精華に来てまず驚いたのは、自分が学生であった頃とは大学のあり方が大きく変化しているという事でした。入試は年間を通して行われているし、学生と先生方と職員がこんなにもお互いに近い距離にある。今、大学がさらされている困難は、見方を変えれば大きなチャンスに違いありません。未熟者ですが頑張りますのでどうぞよろしく願い申し上げます。

### 島本 洸

芸術学部教員



専門は西洋美術史、美術批評史。中でもフランスを主なフィールドとする。「比較美術論」「西洋美術史」などを担当。

4月に黎明館の教壇に立ったばかりなのに、ずいぶん昔からここで西洋美術史や現代美術についてしゃべっているような気持ちになっている。そんな気にさせるのは、食堂メニューの鯖の塩焼きと味噌煮、あるいはチキンカツのためかもしれない。食べ物「適応」という共同体の関係関数を決定するものだ。ともかく、やさしくナイーブな無知をストレートに表現する学生たちと生産的な時間を過ごしたいと思っている。

### 小松敏宏

芸術学部洋画分野教員



オランダ、アメリカの大学でフェローなどとして学び作品制作の後、ニュージャージー大学芸術学部で教鞭を執り、今年度より本学へ。

去年教鞭を執っていたニュージャージー大学では、朝4時半にアパートを出て地下鉄に乗り、マンハッタンで電車に乗り換え、炭疽菌事件で知られたトレントン駅に到着。タクシーで8時前に大学に着くとすぐに授業を始めたものでした。精華の環境は京都という場所柄か、のんびりしていますが、ニューヨークの大学の様になることを目指すのではなく、じっくりと時間をかけた人間教育をしてほしいと考えます。

### 武田恵司

入試課職員



生まれも育ちも大阪。駿台予備学校にて主に広報企画・学務企画を担当。この六月から京都精華大学へ。

少子化に伴い大学も本格的に選別される時代がやってきました。まさに真価や存在価値を問われることになりませんが、本学にとって大きなチャンスでもあります。他大学に比べ強い個性を放っており、キャンパスには個性豊かな学生たちの生命力が溢れています。それこそが魅力であり選ばれる理由になるからです。厳しい時代ですが、社会から必要とされる大学作りへ、少しでもお役に立てるよう頑張ります。

2001(平成13)年度資金収支計算書

2001(平成13)年4月1日から  
2002(平成14)年3月31日まで (単位:千円)

収入の部	
科	目 金額
学生納付金収入	4,660,442
手数料収入	184,037
寄付金収入	28,614
補助金収入	655,948
資産運用収入	89,711
資産売却収入	35,515
事業収入	16,467
雑収入	52,832
借入金収入	0
前受金収入	1,211,136
その他の収入	184,135
資金収入調整勘定	△1,563,595
前年度繰越支払資金	3,421,366
収入の部合計	8,976,608
支出の部	
科	目 金額
人件費支出	2,288,030
教育研究経費支出	1,076,465
管理経費支出	527,427
借入金等利息支出	115,305
借入金等返済支出	298,160
施設関係支出	529,180
設備関係支出	354,302
資産運用支出	431,588
その他の支出	152,884
資金支出調整勘定	△85,356
次年度繰越支払資金	3,288,623
支出の部合計	8,976,608

2001(平成13)年度消費収支計算書

2001(平成13)年4月1日から  
2002(平成14)年3月31日まで (単位:千円)

消費収入の部	
科	目 金額
学生納付金	4,660,442
手数料	184,037
寄付金	34,591
補助金	655,948
資産運用収入	89,711
資産売却差額	1,330
事業収入	16,467
雑収入	52,832
帰属収入合計	5,695,358
基本金組入額合計	△1,190,778
消費収入の部合計	4,504,580
消費支出の部	
科	目 金額
人件費	2,288,067
教育研究経費	1,705,680
管理経費	589,737
借入金等利息	115,305
資産処分差額	1,736
徴収不能額	20,520
消費支出の部合計	4,721,045
当年度消費支出超過額	216,465
前年度繰越消費支出超過額	1,531,322
翌年度繰越消費支出超過額	1,747,787

2002(平成14)年度資金収支予算書

2002(平成14)年4月1日から  
2003(平成15)年3月31日まで (単位:千円)

収入の部	
科	目 金額
学生納付金収入	4,836,224
手数料収入	164,050
寄付金収入	25,000
補助金収入	396,600
資産運用収入	69,000
資産売却収入	1,000,000
事業収入	14,700
雑収入	34,830
借入金収入	0
前受金収入	1,192,780
その他の収入	433,265
資金収入調整勘定	△1,351,136
前年度繰越支払資金	3,288,623
収入の部合計	10,063,936
支出の部	
科	目 金額
人件費支出	2,349,330
教育研究経費支出	1,111,007
管理経費支出	450,431
借入金等利息支出	104,062
借入金等返済支出	313,110
施設関係支出	190,000
設備関係支出	153,000
資産運用支出	1,000,000
その他の支出	155,120
予備費	80,000
資金支出調整勘定	△71,831
次年度繰越支払資金	4,229,707
支出の部合計	10,063,936

貸借対照表

2000(平成12)年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部				負債の部							
科	目	本年度末	前年度末	増	減	科	目	本年度末	前年度末	増	減
固定資産		18,689,233	18,092,176	597,057		固定負債		3,361,238	3,674,311	△313,073	
有形固定資産		16,231,079	16,034,881	196,198		長期借入金		2,752,230	3,065,340	△313,110	
土地		4,040,963	3,926,245	114,718		退職給付引当金		609,008	608,971	37	
建物		9,295,975	9,230,143	65,832		流動負債		1,764,407	1,744,055	20,352	
構築物		677,069	729,570	△52,511		短期借入金		313,110	298,160	14,950	
教育研究用機器備品		1,295,967	1,260,236	35,731		未払金		99,530	81,814	17,716	
その他の機器備品		68,487	73,742	△5,255		前受金		1,211,136	1,235,962	△24,826	
図書		852,332	811,265	41,067		預り金		140,631	128,119	12,512	
車輛		276	1,580	△1,304		負債の部合計		5,125,645	5,418,366	△292,721	
建設仮勘定		0	2,100	△2,100		基本金の部					
その他の固定資産		2,458,154	2,057,295	400,859		科	目	本年度末	前年度末	増	減
電話加入権		3,566	3,566	0		第1号基本金		18,843,690	17,669,911	1,173,779	
有価証券		1,446,360	1,060,960	385,400		第2号基本金		0	0	0	
長期貸付金		352,869	347,569	5,300		第3号基本金		150,000	150,000	0	
退職給付引当特定資産		495,200	495,200	0		第4号基本金		306,000	289,000	17,000	
第3号基本金引当資産		150,000	150,000	0		基本金の部合計		19,299,690	18,108,911	1,190,779	
保証金		10,159	0	10,159		消費収支差額の部					
流動資産		3,988,315	3,903,779	84,536		科	目	本年度末	前年度末	増	減
現金預金		3,288,623	3,421,366	△132,743		翌年度繰越消費支出超過額		1,747,787	1,531,322	216,465	
未収入金		347,324	154,188	193,136		消費収支差額の部合計		△1,747,787	△1,531,322	△216,465	
短期貸付金		3,049	2,443	606		科	目	本年度末	前年度末	増	減
有価証券		315,547	303,543	12,004		負債の部、基本金の部及び					
立替金		5,224	3,673	1,551		消費収支差額の部合計		22,677,548	21,985,955	681,593	
前払金		1,831	0	1,831							
保証金		0	10,159	△10,159							
仮払金		26,717	8,407	18,310							
資産の部合計		22,677,548	21,995,955	681,593							

【概要】  
01年度の帰属収入は、約57億円でした。このうち学生納付金は82%を占めています。  
この中から、京都精華大学表現研究機構設置のための建物の買収・改修工事、大学隣接の食堂施設建設のための用地買収、エクステンション、講堂や同窓会室等多目的用途の大学隣接土地建物の買収等で5億3000万円の施設関係支出を行ない、情

報処理関係その他の機器、図書等で3億5000万円の設備関係支出を行いました。これらを含め大学の基本財産取得に關する基本金組入額はおよそ12億円でした。  
人件費その他の経費経費は約47億円となり、01年度の消費収支は約2億円の支出超過です。前年度からの支出超過額とあわせて、2002年度への繰越支出超過額は17億5000万円となります。

資産の総額の増加と借入金の減少の結果、自己資金率は2%増加し、77.4%になりました。  
2002年度予算は、情報処理教育用パソコンの新機種への買い替え、大学隣接食堂施設「れあた」の建築工事他の施設・設備整備計画を盛り込んだ予算となっていますが、若干の収入超過を見込んだ予算を編成しています。

# 2001年度決算及び2002年度予算について